

文芸作品の和歌の料紙としての短冊の歴史は中世よりはじまり、連歌師の活躍する中世末頃から盛んとなり、やがて句短冊や漢詩短冊も多くあらわれ、江戸時代には国学が興ると地方歌人が各々の地に社中を持ち、三都（京・大坂・江戸）の堂上派地下歌人らとともに多くの和歌短冊を残した。

本資料は、武庫川女子大学資料館所蔵の短冊のうち優品のみを集めて編んだものである。2007年度秋期特別展【10月20日（土）～11月9日（金）】の展示品テーマは「短冊—その様々な美、文字と料紙の出会い、展示品は95点（短冊は300枚ほど）で、古短冊から、近代文学に至るまで様々な分野の短冊を小さなテーマ別に時代順に展示した。

本資料集所載品はその折に出品したもののうち資料館所蔵品の一部である。（本資料集巻末に展示目録を付載した。本資料集は巻末の展示目録とは、所載番号が異なる。）

目 次

古短冊・古歌短冊	3
和歌短冊（国学者・歌人）	10
桂園派（香川景樹門派）	10
鈴屋門（本居宣長門流）	11
京の地下歌人	14
北辺門（富士谷成章門流）	15
句短冊	16